

[チーム研究6] 母子に対する栄養教育の枠組みに関する研究 (主任研究者 堤 ちはる)

## 母親学級における栄養教育に関する研究

母子保健研究部 堤 ちはる・高野 陽  
客員研究員 水野 清子  
嘱託研究員 竹内恵子

三橋扶佐子 (日本歯科大学共同利用研究所)

要約：妊娠中に順調な経過をたどるためには、妊娠中の栄養管理も重要な一要因であると考えられる。そこで、市町村の母親学級の実態を把握し、さらにその問題点を見出し、栄養教育の枠組みを検討するために研究を行い、妊娠・出産に関する QOL の向上を目指した。調査は自記式調査票を用いた郵送調査法により実施した。対象は全国の保健センターから 927 か所 (無作為抽出) の栄養士とし、勤務していない場合は保健師とした。集計分析は回収 557 施設 (有効回答 60%) を使用した。

その結果、栄養士未配置施設は栄養士配置施設に比べて、栄養教育の内容は受講者のニーズに合致したものではなく、時間的にも不十分であった。改善には、潜在栄養士の活用、ならびに保健師との連携も視野に入れた栄養教育の充実を図ることが重要であると思われる。他職種間との連携が円滑な施設が少なかったことから、今後は連携を密にとり、役割の明確化と、専門性を活かすことが必要である。受講者の調理技術・知識の低下が著しいこと、ならびに医療機関の母親学級との特色分けのためにも、市町村の母親学級においては調理教育を積極的に取り入れることが望まれる。母親学級における栄養教育以外の栄養士の役割に、育児仲間作り・育児不安解消の援助が多くあげられた。栄養教育を行いながら、これらの援助が効果的にすすめられる母親学級の運営の工夫が大切であると思われる。栄養士は地域母子保健の認識が、必ずしも高くないことが明らかにされた。今後、栄養士は母親学級を主催する意義の認識を深め、その運営に今まで以上に積極的に参画することが重要である。

見出し語：母親学級、栄養士、栄養教育、保健師、調理教育

## The Study of the Nutrition Education in the Municipal Maternity Classes

Chiharu TSUTSUMI, Akira TAKANO, Kiyoko MIZUNO, Keiko TAKEUCHI, Fusako MITSUHASHI

Abstract: The nutrition care of pregnancy is one of the important factors to progress normal pregnancy. We surveyed the current state of the municipal maternity classes, found the problems, and studied in the framework of the nutritional education. In this paper, we propose how to improve the QOL of pregnant women and children. The mail survey conducted targeting 927 nutritionists in municipal health centers. The public health nurses were asked to answer the questionnaire if there is no nutritionist in the centers. The effective recovery rate was 60%.

We found that the nutrition education did not meet the needs of pregnant women and enough time was not allotted to educate them in the centers without employed nutritionist. In order to improve the situation, it is important to enrich the nutrition education by making best use of latent nutritionists and by cooperating with public health nurses. There was little cooperation among the other specialists. They need to contact closely with the other specialists, clarify their roles, and to make the best use of their expertise. Cookery education should enhance in the municipal health centers to improve cooking technique and knowledge of pregnant women and to characterize the maternity class of municipal health centers to those of hospitals. Besides nutrition education, nutritionists are expected to have the roles of helping making friends of childcare and getting rid of anxiety of nursing. The proper management of maternity classes is important to give these supports while providing nutrition education. Nutritionists in local area do not pay enough attention to antenatal and child-rearing mothers. In the future, the nutritionists should understand the importance of organizing the municipal maternity classes and participate in the management of the classes more aggressively.

Key Words: Maternity class, Nutritionist, Nutrition education, Public health nurse, Cookery education

## I. 研究目的

栄養・食生活における我が国の現状をみると、飽食の時代といわれながら、過剰な栄養素摂取と運動不足による肥満等の問題、食塩摂取過剰、カルシウム不足といった栄養の偏り、また、食をめぐる行動においても、朝食を食べない若者の増加、若い女性における生活リズムの乱れ、過度のダイエット指向、調理離れなどの食生活の乱れが指摘されている。

そのような状況の中、母子保健の国民運動計画である「すこやか親子21」の主要課題の一つに、妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保があげられている。妊娠中に順調な経過をたどるためには、妊娠中の栄養管理も重要な一要因であると思われる。

そこで、市町村の母親学級における栄養教育の枠組みを検討し、本研究結果を妊娠・出産に関するQOLの向上に役立てることを目指して研究を行った。本年度は、現在、市町村で行われている母親学級の実態をとらえ、栄養教育上の問題点を見出すことを目的とした。

## II. 研究方法

全国の保健センター、保健所の中から927か所を無作為に抽出し、母親学級についての調査票を郵送配布し、557か所から有効回答60.0%を得た。なお、母親学級を実施していないとの回答が得られたのは59か所6.4%であった。

調査対象は栄養士、管理栄養士としたが、両者が未配置の場合には保健師とした。なお、事前の市町村栄養士からの聴取により、母親学級に関する業務には栄養士と管理栄養士の間に差異はほとんどみられなかったので、回答者の資格区分以外は栄養士と管理栄養士を合わせて集計し、表記は栄養士とした。

調査内容は、栄養士配置状況、母親学級の形態、内容、多職種との連携、栄養士の役割、実施上の問題点、今後の企画などであり、平成14年10月1日現在の実態を回答してもらった。

統計的解析はSPSS Ver.10.0を使用した。有意差検定には $\chi^2$ 法を用い、有意水準は5%とした。

## III. 研究結果

### 1. 栄養士の配置

栄養士の配置状況は、常勤栄養士のみ配置は311か所(62.4%)、常勤、非常勤栄養士両方配置は86

か所(17.3%)、非常勤栄養士のみ配置は69か所(13.9%)、常勤、非常勤栄養士未配置は32か所(6.4%)であった(表1)。

### 2. 回答者の属性

回答者は栄養士14.5%、管理栄養士42.6%、保健師42.9%であった。栄養士の配置率に比べて回答者に保健師が多いために、設問によっては両者を区分して集計した(表2)。

回答者は女性98.8%、男性1.2%であり、年齢は多い年代順に20歳台34.9%、30歳台27.5%、40歳台27.3%、50歳代9.4%であった。母親学級運営に関与した延べ年数は、多い順番に3年未満35.3%、3~6年未満25.7%、12年以上18.1%、6~9年未満11.4%であり、6年未満が約60%を占めていた。

### 3. 母親学級を実施する施設の属する自治体及び運営に関わる職員数

母親学級を実施する施設の属する自治体の人口は2万人以上5万人未満が24.9%と最も多く、次いで1万人以上2万人未満17.9%、5万人以上10万人未満15.9%、5千人以上1万人未満14.9%であった(表3)。

母親学級運営には4~6名の職員が関与することが多かった。常勤職員の関与は、多い順番に2名、3名、4名、非常勤職員は関与なし、1名、2名の順であり、全体では非常勤職員の関与が少ないことが明らかになった(表4)。

常勤、あるいは非常勤栄養士の関与は1名約67%、2名約18%、3名以上は10%以下であった。常勤栄養士の関与は1名が、非常勤栄養士は関与なしが最も多く、全体では非常勤栄養士の関与は少なかった。常勤保健師の関与は1名、2名がそれぞれ約25%、3名約14%、4名約11%、6名以上も約15%であり、非常勤保健師の関与は少なかった(表5)。

設問によっては、本調査結果を常勤栄養士を配置する施設(以下、常勤栄養士配置施設)、非常勤栄養士のみ配置する施設(非常勤栄養士配置施設)、栄養士の未配置施設(栄養士未配置施設)に分類して集計した。この3群は対象の施設数の差が大きいため、有意差検定は行なわなかった。

### 4. 母親学級開催時間

母親学級1クール合計開催時間数は、2時間までは

14.9%、4時間までは16.3%と多く、それ以降12時間までは11~13%であった。常勤、非常勤栄養士配置施設に差は見られなかった。しかし、栄養士配置施設と未配置施設を比較すると、未配置施設は開催時間が全体に短い傾向であった(表6)。

開催時間に占める食生活に関する部分の割合は20%までは24.9%、30%までは22.1%、40%までは19.5%であり、40%までが約70%を占めていた。常勤、非常勤栄養士配置施設に著明な差は見られなかった。栄養士未配置施設の約70%は食生活に関する部分はなかった(表7)。

## 5. 母親学級の形態

母親学級の中で食生活に関する部分の形態は、講義88.4%、受講者間の自由な会話69.3%、調理実習・試食50.6%、調理実習見学・試食16.1%、ビデオ8.6%であった。調理実習・試食は常勤栄養士配置施設で多く、調理実習見学・試食は非常勤栄養士配置施設で多かった。栄養士未配置施設は受講者間の自由な会話がかった。なお、栄養士未配置施設においても調理実習・試食が9.4%実施されていた(表8)。

## 6. 母親学級で扱う食生活に関する内容

母親学級で扱う食生活に関する内容は、多い順番に貧血の知識と予防する食事、カルシウムの知識と予防する食事、妊娠・非妊娠時の栄養所要量であり、それらは常勤、非常勤栄養士配置施設共に80%以上であった。次いで妊娠中毒症の知識と予防する食事、体重管理が70%以上でそれらに続き、間食は60%以上であった。その他には、栄養相談、外食、インスタント食品・コンビニエンスフーズ、食物アレルギーが30%以上、母乳の知識と分泌を促進する食事、サプリメント、ビタミンKの知識と補給する食事、離乳食が20%以上であった。また割合は少ないものの便秘、葉酸、ビタミンAなどもあった。常勤、非常勤栄養士配置施設による差は、母乳の知識と分泌を促進する食事で常勤が非常勤栄養士配置施設に比べて約1.5倍多かったが、他の項目では、常勤、非常勤栄養士配置施設による差はほとんどみられなかった。栄養士配置施設の約30%が扱っていた食物アレルギーについて、栄養士未配置施設は全く扱ってなかった(表9)。

## 7. 母親学級のお職種との調整頻度

母親学級の内容を他職種と調整する頻度は、一年に一度位が53.2%と最も多く、次いで毎度が20.5%であった。実施しない施設も11.8%あった。調整しないは常勤栄養士配置施設10.8%、非常勤栄養士配置施設14.5%、栄養士未配置施設18.8%の順に高くなった(表10)。

調整に参加するのは保健師94.0%、助産師29.5%、歯科衛生士19.2%、栄養士7.4%であり、その他にも割合は少ないものの歯科医師、看護師、医師なども参加していた。助産師の参加は常勤栄養士配置施設の25.6%に対して、非常勤栄養士配置施設は45.6%、栄養士未配置施設は50.0%と高かった。

全体の内容を他職種と調整しない理由は、時間、人手不足25.4%、他職種と調整の機会がない22.0%、自分は調整の必要性を感じない15.3%、自分は調整の必要性を感じるが、他職種は感じない5.1%であった。時間、人手不足は常勤栄養士配置施設が非常勤栄養士配置施設の約3倍、自分は調整の必要性を感じないは、常勤栄養士配置施設に比べて、非常勤栄養士配置施設は約2倍、栄養士未配置施設は約3倍多かった(表11)。

## 8. 受講者からの食生活に関する質問

受講者から食生活に関する質問件数は、常勤栄養士配置施設が非常勤栄養士配置施設に比べて多く、栄養士未配置施設は少なかった。質問内容は体重管理44.5%、貧血の知識と食事42.1%、食物アレルギー35.3%、料理(作り方、栄養バランス)32.9%、妊娠中毒症22.6%、サプリメント17.8%、妊娠・非妊娠時の栄養所要量16.0%、便秘14.8%、カフェイン・アルコール12.8%、カルシウムの知識と補給する食事11.0%であり、10%以下にわりの時の食事と生活、離乳食、間食、水分、母乳の知識と分泌を促進する食事、インスタント食品・コンビニエンス食品があげられていた。カフェイン・アルコールの項目は常勤栄養士配置施設は非常勤栄養士配置施設の約3倍多かったが、その他の項目では両施設間の差はほとんどみられなかった(表12)。

## 9. 受講者が母親学級に求めるもの

受講者が母親学級に求めるものは栄養の知識習得83.1%、育児仲間作りの場70.5%、適正体重の知識

習得58.0%、育児不安解消の場48.2%、食物アレルギーの知識習得44.8%、調理技術習得35.9%、ストレス発散の場32.5%であった。常勤栄養士配置施設は非常勤栄養士配置施設より、育児仲間作りの場合は約20%、育児不安解消の場は約10%多かった。その他の項目には、両施設間の差はほとんどみられなかった。栄養士未配置施設は回答数が少ないために、数字は全ての項目で栄養士配置施設より少ないが、栄養の知識習得、適正体重の知識習得の回答が比較的多かった。回答者の資格別では、栄養士は保健師より、育児仲間作り、育児不安解消の場、調理技術習得が有意に多かった(表13)。

### 10. 母親学級における栄養士の役割

母親学級における栄養士の役割は、栄養教育、適正体重の知識普及が70%以上と多く、次いで育児仲間作りの援助、食物アレルギーの知識普及が50%以上、育児不安解消の援助、調理技術の普及が45%以上、ストレス解消の援助が25%以上であった。常勤栄養士配置施設と非常勤栄養士配置施設で差の大きい項目は育児仲間作りの援助、育児不安の解消援助であり、これは表13の受講者が母親学級に求めるものと同様の傾向であった。栄養士未配置施設は栄養教育、適正体重の知識普及、食物アレルギーの知識普及が多かった。回答者の資格別では、栄養士は保健師より、栄養教育、育児仲間作りの援助、育児不安解消の援助、調理技術の普及が有意に多かった(表14)。

### 11. 母親学級で栄養士が関わる企画

今後、母親学級で栄養士が関わる企画で、望ましいと一番多くあげられたのは調理実習・試食であった。調理実習・試食の実施上、障害となる理由は時間・人手不足、参加人数の制約、予算不足が多かった。一方、この企画は約40%が実施上の障害なしとされていた。その他の企画としては、講義、食事調査、個別栄養相談、ビデオ、調理見学・試食などがあつた。実施上、障害となる理由は時間・人手不足が多かったが、これらの企画を実施上、障害なしも25~50%あつた(表15)。

### 12. 母親学級運営上の問題点

母親学級運営上の問題点は、講習が栄養士の一方

的な話になる32.9%、受講者間で食生活の意識・知識の差が大きく、講習のレベルの設定に苦勞する26.3%、講習中、受講者の興味・関心の維持が困難22.9%、栄養士の担当時間不足16.7%、受講者の知識不足で講習が難しい8.0%であった。常勤栄養士配置施設は非常勤栄養士配置施設に比べ、講習中受講者の興味・関心の維持困難が約1.5倍多かった。回答者の資格別では、栄養士は保健師より、講習が栄養士の一方的な話になる、講習中、受講者の興味・関心の維持困難が有意に多かった。一方、他職種との連携不足をあげている保健師が栄養士より有意に多かった(表16)。

### 13. 栄養士に求められる知識・技術

今後、栄養士に求められる知識・技術は、栄養カウンセリングの技術71.1%、栄養学の知識71.1%、食物アレルギーの知識60.8%、医学一般の知識50.6%、調理技術・知識42.2%が多かった。常勤栄養士配置施設は、栄養カウンセリングの知識、食物アレルギーの知識、医学一般の知識が非常勤栄養士配置施設より多かった。栄養士未配置施設においても、栄養士配置施設と同じ項目が上位にあげられていた。次に回答者の資格別にみると栄養士は保健師より、栄養カウンセリングの技術、栄養学の知識、医学一般の知識、調理技術・知識が有意に多かった(表17)。

### 14. 母親学級に対して思うこと

母親学級に対する思いや考えの自由記述を、KJ法によりカテゴリー別に分類すると、仲間作り交流の場としての役割が一番多く、次いで受講者への食生活への関心喚起、育児不安やストレス解消援助、母親教室受講後の支援・相談継続の希望、受講者とその家族の健康への関心喚起などがあげられていた。常勤栄養士配置施設は非常勤栄養士配置施設より、母親学級終了後の支援・相談、健康改善が約2倍多かった。一方、受講者のニーズへの対応、教室の見直しは非常勤栄養士配置施設が常勤栄養士配置施設より約2倍多かった。栄養士未配置施設は、栄養士配置施設より、母親教室見直しとニーズへの対応検討、病院の母親教室との特色分け、受講者減少の問題が多くあげられていた。回答者の資格別では、栄養士は保健師より食生活への関心喚起、受講者の

格差、意識の低下の問題が有意に多かった。一方、保健師は栄養士より仲間作り、交流の場としての役割、夫の家事、育児参加の必要性が有意に多かった（表18）。

#### IV. 考察

市町村の母親学級の実態を把握し、さらにその問題点を見出し、栄養教育の枠組みの検討を行うことにより、妊娠・出産に関するQOLの向上を目指して本研究を行った。

その結果、常勤栄養士、ならびに非常勤栄養士未配置施設は回答した施設全体の6.4%と少ないものの、栄養士配置施設と比較すると、栄養教育の内容、時間、他職種との連携などが不十分であることが明らかにされた。栄養教育効果をあげるためには、栄養士配置率をあげることが望まれるが、それがすぐに実現できない場合には潜在栄養士の活用が望ましい。その場合、加藤ら<sup>9)</sup>が潜在助産師の活用の際に示した、安定した活動場所の提供、実践の評価を可能にするフォローアップシステムや評価システムの開発、地域・行政システム把握のために学習会の提供などを整備し、潜在栄養士が地域で積極的に活動できるシステムの構築も必要である。また、保健師による栄養教育に際しては、保健師用指導マニュアルの作成等により、栄養士配置施設と内容の格差縮小を図る必要があると思われる。

現在、母親学級は医療機関でも実施され、妊婦の中には、病院と市町村保健センター主催の母親学級の両方を受講する者も多い。今回の調査では病院の母親学級との特色分けに悩む栄養士も多く、病院は医学的、栄養学的なことを学ぶ場として、一方、市町村保健センターは、育児仲間作りや育児不安解消の場としての機能を持たせる提言が多かった。この提言に対して栄養士は、栄養教育の形態を受講者参加型にするなどの工夫をしながら援助を進めていくことが必要である。

市町村の母親学級に特徴的な企画の一つに、調理実習がある。今回の調査結果では、約50%の施設において調理実習が実施され、また、今後栄養士に関わる望ましい企画として、一番多くあげられたものが調理実習であった。調理実習実施の際に予想される困難としてあげられていた時間、人手不足、参加人数の問題ならびに予算不足に対しては、実習内容

や事前準備の工夫により、対応可能であると思われる。また、実施上、障害なしが全体の約40%であることを考えると、病院との特色分けができ、さらに教育効果の上がる調理教育を積極的に取り入れることが必要であると思われる。

佐藤らが平成6年度に調査した妊娠中に受講した食生活指導の内容を妊産婦の結果<sup>2)</sup>と、今回調査した母親学級で扱う食生活に関する内容を比較すると、佐藤らの結果には調理方法が入っていたが、今回は入っておらず、受講者からの質問は料理（作り方、栄養バランス）が入っている。これは、平成6年度に比べ、近年、受講者の調理離れの進行、外食やインスタント食品・コンビニエンスフーズの利用の増加の現状に即して、調理に関する内容に代わり、平成6年度の調査にはなかった外食、インスタント食品・コンビニエンスフーズが取り扱われるようになったことが推察される。しかし、外食や、インスタント食品・コンビニエンスフーズを利用する場合にも、調理の基本の習得が必須であり、受講者もその必要性を痛感しているために、質問として料理（作り方、栄養バランス）があげられたものと思われる。先述の今後の企画で調理実習・試食が多く提案されたことと考え合わせると、調理教育をより一層充実させていく必要があると考える。

母親学級で扱う食生活に関する内容と受講者からの食生活に関する質問の重複する項目（体重管理、貧血、食物アレルギー、妊娠中毒症、栄養所要量、カルシウム）については、頻出質問と回答をまとめた想定問答集型のパンフレットを作成することも、受講者の栄養教育に有効であると考えられる。また、取り扱わないが質問が寄せられる項目である料理（作り方、栄養バランス）、サプリメント、便秘、カフェイン・アルコールについては、それらのニーズの高いことを担当者へ周知し、母親学級の中で取り上げるよう働きかけることと同時に、パンフレットなどの補助教材作成時には、これらの内容を盛り込むなどの配慮をすることが大切である。

母親学級の内容を他職種間と調整する頻度は、母親学級終了後、毎回実施する施設は少なく、一年に一度が過半数を占めており、調整の実施が困難な理由は他職種と調整の機会がないことがあげられていた。しかし、職場の中でそれぞれの役割を明確にし、専門性を生かしたチームによる質の高い、受講者の

ニーズに合致した母親学級を運営していくためには、毎回内容を見直し、職種間での重複をなくすことが大切である。佐藤らによる母子保健における食生活支援に関する調査研究<sup>3)</sup>においても、住民のニーズに対応した支援には、異なる専門職種間の連帯の必要性が示されている。効果的な連携をとるためには、他職種間で定期的に会議を開催することが望ましい。

母親学級運営上の問題点として、栄養士は保健師よりも講習が栄養士の一方的な話になる、受講者の興味・関心の維持が困難であるが有意に多かった。これらの解消には、栄養士は地域の妊産婦の食生活の傾向、ならびに食生活に対する意識を常に把握し、受講者のニーズに合わせた母親学級を運営することが必要である。また、母親学級は栄養士による一方的な知識や技術の伝達の場合、教育の場合ではなく、受講者と共に考え、また学ぶ姿勢で臨む場であることを認識することも求められる。

栄養士に栄養カウンセリングの技法が必要であると考えた者が大変多かった。これは、受講者のニーズが集団指導よりも、個別相談を求めていること、また、受講者の興味・関心の維持が困難であることを多くの栄養士が感じていることから、受講者の気持ちに添った栄養カウンセリングを実施したいとする現場の要望を反映するものであろう。そこで、栄養士の卒後教育に、栄養カウンセリングについての研修を積極的に取り入れていくことが必要であると考えた。

栄養士は地域母子保健の認識が、必ずしも高くないことが母親学級に対する栄養士の思いの記述などから明らかにされた。今後、栄養士は母親学級を主催する意義の認識を深め、その運営に今まで以上に積極的に参画する必要があると思われる。

## V. 結論

全国の市町村で実施されている母親学級の実態調査を行ったところ、栄養士未配置施設は栄養士配置施設に比べて、栄養教育の内容は受講者のニーズに合致したものではなく、時間的にも不十分であった。その改善には、潜在栄養士の活用、ならびに保健師との連携も視野に入れた栄養教育の充実を図ること

が重要であると思われた。

栄養士の回答には、母親学級の栄養士の役割に育児仲間作りの援助、育児不安解消の援助が多くあげられた。栄養教育を行いながら、これらに対する栄養士の援助がすすめられることが望ましい。

受講者の調理技術・知識の低下が著しいこと、ならびに医療機関の母親学級との特色分けのためにも、市町村の母親学級においては調理教育を積極的に取り入れることが必要であると思われた。

受講者のニーズがますます多様化していく中で、母親学級における栄養教育の焦点の設定は今後の検討課題である。母親学級は栄養士による一方的な知識や技術の伝達、教育の場合ではなく、受講者と共に考え、共に学ぶ姿勢で臨む場であることが求められる。今後は他職種間と連携を密にとり、それぞれの役割の明確化と専門性を活かしながら、受講者のニーズに合致する母親学級の運営について研究していく必要がある。

## 謝辞

ご多忙のところ、調査にご協力いただきました管理栄養士、栄養士、保健師の方々に深謝いたします。

## 文献

- 1) 加藤尚美：母子保健における助産婦のあり方に関する研究、厚生省心身障害研究「市町村における母子保健の効率的実施に関する研究」平成8年度研究報告書（主任研究者：高野陽）、355-358、1997。
- 2) 佐藤加代子、石田志子、木村ひづる：母子保健における助産婦のあり方に関する研究、妊産婦の食生活の支援に関する研究、厚生省心身障害研究「市町村における母子保健の効率的実施に関する研究」平成6年度研究報告書（主任研究者：高野陽）、320-325、1995。
- 3) 佐藤加代子、石田志子、倉住玲子、杉本聖子、山本紘子、近藤文子：母子保健における食生活支援に関する研究、厚生省心身障害研究「市町村における母子保健の効率的実施に関する研究」平成8年度研究報告書（主任研究者：高野陽）、373-378、1997。

表1 栄養士の配置率

	非常勤栄養士		合計	
	有	無		
常勤栄養士	有	86	311	397
	(%)	(17.2)	(62.4)	(79.7)
	無	69	32	101
	(%)	(13.8)	(6.4)	(20.2)
合計	155	343	498	
	(31.1)	(68.8)	(100)	

表2 回答者の属性

資格	件数	%
栄養士	72	14.5
管理栄養士	212	42.6
保健師	214	42.9
回答数合計	498	100.0
施設合計	498	100.0

表3 自治体の人口規模

人口区分	件数	%
5千人未満	35	7.0
5千人以上1万人未満	74	14.9
1万人以上2万人未満	89	17.9
2万人以上5万人未満	124	24.9
5万人以上10万人未満	79	15.9
10万人以上20万人未満	49	9.8
20万人以上	48	9.6
合計	498	100.0

表4 母親学級の運営に関与する職員数

人数	常勤		非常勤		職員合計	
	件数	%	件数	%	件数	%
0	5	1.0	130	26.1	7	1.4
1	29	5.8	115	23.1	43	8.6
2	98	19.7	85	17.1	55	11.0
3	92	18.5	60	12.0	1	0.2
4	76	15.3	49	9.8	68	13.7
5	52	10.4	20	4.0	72	14.5
6	47	9.4	12	2.4	53	10.6
7	30	6.0	10	2.0	32	6.4
8	16	3.2	5	1.0	37	7.4
9	19	3.8	2	0.4	33	6.6
10名以上	34	6.8	10	2.0	97	19.5
合計	498	100.0	498	100.0	498	100.0

表5 母親学級の運営に関与する栄養士、保健師の勤務形態

人数	栄養士						保健師					
	常勤		非常勤		合計		常勤		非常勤		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
0	101	20.3	343	68.9	32	6.4	29	5.8	463	93.0	25	5.0
1	346	69.5	119	23.9	331	66.5	127	25.5	25	5.0	125	25.1
2	39	7.8	26	5.2	91	18.3	117	23.5	5	1.0	113	22.7
3	7	1.4	5	1.0	24	4.8	70	14.1	2	0.4	74	14.9
4	3	0.6	3	0.6	13	2.6	56	11.2	2	0.4	56	11.2
5	0	0.0	0	0.0	3	0.6	28	5.6	0	0.0	28	5.6
6名以上	2	0.4	2	0.4	4	0.8	71	14.3	1	0.2	76	15.3
合計	498	100.0	498	100.0	498	100.0	498	100.0	498	100.0	498	100.0

表6 母親学級開催時間

時間	栄養士配置施設				栄養士未配置施設		全体	
	常勤		非常勤のみ		件数	%	件数	%
	件数	%	件数	%				
～2	53	13.4	12	17.4	9	28.1	74	14.9
～4	62	15.6	9	13.0	10	31.3	81	16.3
～6	48	12.1	5	7.2	6	18.8	59	11.8
～8	50	12.6	10	14.5	1	3.1	61	12.2
～10	56	14.1	10	14.5	2	6.3	68	13.7
～12	55	13.9	11	15.9	0	0.0	66	13.3
～15	25	6.3	7	10.1	0	0.0	32	6.4
～20	18	4.5	3	4.3	0	0.0	21	4.2
20～	14	3.5	2	2.9	1	3.1	17	3.4
未記入	16	4.0	0	0.0	3	9.4	19	3.8
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	498	100.0

表7 開催時間に占める食生活に関する部分の割合

%	栄養士配置施設				栄養士 未配置施設		全体	
	常勤		非常勤のみ		件数	%	件数	%
件数	%	件数	%					
0	4	1.0	0	0.0	22	68.8	26	5.2
～10	18	4.5	2	2.9	0	0.0	20	4.0
～20	104	26.2	18	26.1	2	6.3	124	24.9
～30	92	23.2	18	26.1	0	0.0	110	22.1
～40	79	19.9	16	23.2	2	6.3	97	19.5
～50	47	11.8	7	10.1	0	0.0	54	10.8
～99	30	7.6	5	7.2	1	3.1	36	7.2
100	4	1.0	1	1.4	0	0.0	5	1.0
未記入	19	4.8	2	2.9	5	15.6	26	5.2
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	498	100.0

表8 食生活に関する部分の実施形態

形態	栄養士配置施設				栄養士 未配置施設		全体	
	常勤		非常勤のみ		件数	%	件数	%
件数	%	件数	%					
講義	369	92.9	67	97.1	4	12.5	440	88.4
受講者間の自由な会話	291	73.3	59	85.5	13	40.6	345	69.3
調理実習・試食	215	54.2	34	49.3	3	9.4	252	50.6
調理実習見学・試食	65	16.4	15	21.7	0	0.0	80	16.1
ビデオ	38	9.6	4	5.8	1	3.1	43	8.6
その他	104	26.2	18	26.1	2	6.3	124	24.9
回答数合計	1082	272.5	197	285.5	23	71.9	1284	257.8
施設合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	498	100.0

表9 母親学級で扱う食生活に関する内容

内容	栄養士配置施設				栄養士 未配置施設		全体	
	常勤		非常勤のみ		件数	%	件数	%
件数	%	件数	%					
貧血(知識と食事)	381	96.0	67	97.1	4	12.5	452	90.8
カルシウム(知識と食事)	363	91.4	64	92.8	3	9.4	430	86.3
栄養所要量(妊娠・非妊娠時)	352	88.7	57	82.6	2	6.3	411	82.5
妊娠中毒症(知識と食事)	330	83.1	52	75.4	2	6.3	384	77.1
体重管理	319	80.4	50	72.5	2	6.3	371	74.5
間食	259	65.2	46	66.7	2	6.3	307	61.6
栄養相談	198	49.9	31	44.9	3	9.4	232	46.6
外食	153	38.5	24	34.8	2	6.3	179	35.9
インスタント食品・コンビニエンスフーズ	141	35.5	21	30.4	1	3.1	163	32.7
食物アレルギー	132	33.2	18	26.1	0	0.0	150	30.1
サプリメント	118	29.7	17	24.6	1	3.1	136	27.3
母乳(知識と食事)	121	30.5	14	20.3	1	3.1	136	27.3
ビタミンK(知識と食事)	97	24.4	18	26.1	1	3.1	116	23.3
離乳食	91	22.9	16	23.2	2	6.3	109	21.9
便秘	12	3.0	1	1.4	0	0.0	13	2.6
葉酸	12	3.0	1	1.4	0	0.0	13	2.6
ビタミンA	7	1.8	0	0.0	0	0.0	7	1.4
その他	25	6.3	2	2.9	2	6.3	29	5.8
回答数合計	3111	783.6	499	723.2	28	87.5	3638	730.5
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	498	100.0



表10 他職種間との調整頻度

頻度	栄養士配置施設				栄養士 未配置施設		全体	
	常勤		非常勤のみ		件数	%	件数	%
	件数	%	件数	%				
毎回	81	20.4	13	18.8	8	25.0	102	20.5
二～三ヶ月に一度位	17	4.3	2	2.9	0	0.0	19	3.8
半年に一度位	13	3.3	0	0.0	1	3.1	14	2.8
一年に一度位	215	54.2	41	59.4	9	28.1	265	53.2
実施しない	43	10.8	10	14.5	6	18.8	59	11.8
その他	21	5.3	1	1.4	1	3.1	23	4.6
未記入	50	12.6	12	17.4	13	40.6	75	15.1
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	498	100.0

表11 他職種間と調整をしない理由

理由	栄養士配置施設				栄養士 未配置施設		全体	
	常勤		非常勤のみ		件数	%	件数	%
	件数	%	件数	%				
時間、人手不足	14	32.6	1	10.0	0	0.0	15	25.4
他職種と調整の機会がない	11	25.6	2	20.0	0	0.0	13	22.0
自分は調整の必要性を感じない	5	11.6	2	20.0	2	33.3	9	15.3
自分は感じるが、他職種は感じない	2	4.7	1	10.0	0	0.0	3	5.1
その他	12	27.9	3	30.0	4	66.7	19	32.2
未記入	3	7.0	1	10.0	0	0.0	4	6.8
回答数合計	47	109.3	10	100.0	6	100.0	63	106.8
合計	43	100.0	10	100.0	6	100.0	59	100.0

表12 受講者からの食生活に関する質問

質問	栄養士配置施設				栄養士 未配置施設		全体	
	常勤		非常勤のみ		件数	%	件数	%
	件数	%	件数	%				
体重管理	128	44.3	20	44.4	2	66.7	150	44.5
貧血(知識と食事)	126	43.6	15	33.3	1	33.3	142	42.1
食物アレルギー	105	36.3	13	28.9	1	33.3	119	35.3
料理(作り方、栄養バランス)	100	34.6	9	20.0	2	66.7	111	32.9
妊娠中毒症(知識と食事)	63	21.8	10	22.2	3	100.0	76	22.6
サプリメント	49	17.0	10	22.2	1	33.3	60	17.8
栄養所要量(妊娠時・非妊娠時)	45	15.6	7	15.6	2	66.7	54	16.0
便秘	41	14.2	8	17.8	1	33.3	50	14.8
カフェイン・アルコール	41	14.2	2	4.4	0	0.0	43	12.8
カルシウム(知識と食事)	30	10.4	6	13.3	1	33.3	37	11.0
つわり(食事と生活)	25	8.7	4	8.9	0	0.0	29	8.6
離乳食	22	7.6	2	4.4	0	0.0	24	7.1
間食	21	7.3	4	8.9	0	0.0	25	7.4
水分	12	4.2	0	0.0	0	0.0	12	3.6
母乳(知識と食事)	10	3.5	0	0.0	0	0.0	10	3.0
インスタント食品・コンビニエンスフーズ	9	3.1	0	0.0	0	0.0	9	2.7
ビタミンA	4	1.4	2	4.4	0	0.0	6	1.8
葉酸	6	2.1	0	0.0	0	0.0	6	1.8
外食	3	1.0	0	0.0	0	0.0	3	0.9
その他	59	20.4	10	22.2	0	0.0	69	20.5
回答数合計	899	311.1	122	271.1	14	466.7	1035	307.1
合計	289	100.0	45	100.0	3	100.0	337	100.0

表13 受講者が母親学級に求めるもの

項目	栄養士の勤務形態別						回答者別				全体	
	常勤		非常勤のみ		栄養士未配置		栄養士		保健師			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
栄養の知識習得	337	84.9	59	85.5	18	56.3	242	85.2	172	80.4	414	83.1
育児仲間作りの場	302	76.1	38	55.1	11	34.4	227 *	79.9	124	57.9	351	70.5
適正体重の知識取得	236	59.4	40	58.0	13	40.6	163	57.4	126	58.9	289	58.0
育児不安解消の場	204	51.4	27	39.1	9	28.1	164 *	57.7	76	35.5	240	48.2
食物アレルギーの知識習得	186	46.9	27	39.1	10	31.3	129	45.4	94	43.9	223	44.8
調理技術習得	146	36.8	25	36.2	8	25.0	114 *	40.1	65	30.4	179	35.9
ストレス発散の場	136	34.3	20	29.0	6	18.8	102	35.9	60	28.0	162	32.5
その他	22	5.5	3	4.3	1	3.1	18	6.3	8	3.7	26	5.2
回答数合計	1569	395.2	239	346.4	76	237.5	1159	408.1	725	338.8	1884	378.3
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	284	100.0	214	100.0	498	100.0

\*: P<0.05 栄養士vs保健師

表14 母親学級における栄養士の役割

項目	栄養士の勤務形態別						回答者別				全体	
	常勤		非常勤のみ		栄養士未配置		栄養士		保健師			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
栄養教育	384	96.7	68	98.6	19	59.4	276 *	97.2	195	91.1	471	94.6
適正体重の知識普及	294	74.1	46	66.7	14	43.8	205	72.2	149	69.6	354	71.1
育児仲間作りの援助	254	64.0	34	49.3	9	28.1	193 *	68.0	104	48.6	297	59.6
食物アレルギーの知識普及	214	53.9	35	50.7	13	40.6	148	52.1	114	53.3	262	52.6
育児不安解消の援助	199	50.1	27	39.1	7	21.9	153 *	53.9	80	37.4	233	46.8
調理技術の普及	189	47.6	34	49.3	10	31.3	151 *	53.2	82	38.3	233	46.8
ストレス発散の援助	109	27.5	17	24.6	4	12.5	79	27.8	51	23.8	130	26.1
その他	33	8.3	3	4.3	1	3.1	28	9.9	9	4.2	37	7.4
回答数合計	1676	422.2	264	382.6	77	240.6	1233	434.2	784	366.4	2017	405.0
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	284	100.0	214	100.0	498	100.0

\*: P<0.05 栄養士vs保健師

表15 母親学級で栄養士が今後関わる企画

企画	障害										
	時間	人手	予算	参加人数	設備	ニーズ不明	適切な物が無い	他部門との調整必要	他	なし	合計
調理実習・試食	70	42	15	17	9	2	0	2	6	57	151
講義	15	6	1	2	0	2	0	2	2	21	43
食物摂取調査	18	13	3	0	0	0	1	2	2	8	31
個別相談	11	8	1	0	0	1	0	0	2	13	30
ビデオ	10	2	4	1	1	1	8	2	0	11	29
調理見学・試食	4	6	4	0	0	1	0	0	1	5	17
離乳食	5	3	0	0	0	0	0	0	0	9	14
グループワーク	3	2	0	1	0	0	0	0	1	7	13
自由な会話	2	1	0	0	0	0	0	0	0	8	10
間食、外食、インスタント食品の利用法	3	1	2	0	0	0	0	0	0	7	13
夫の参加	4	1	1	1	0	0	0	0	0	2	6
合計	145	85	31	22	10	7	9	8	14	148	

表16 母親学級運営上の問題点

項目	栄養士の勤務形態別						回答者別				全体	
	常勤		非常勤のみ		栄養士未配置		栄養士		保健師			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
講習が栄養士の一方向的な話になる	138	34.8	26	37.7	0	0.0	108 *	38.0	56	26.2	164	32.9
受講者間で食生活の意識・知識の差が大きく講習のレベル設定に苦勞	112	28.2	18	26.1	1	3.1	81	28.5	50	23.4	131	26.3
講習の間中、受講者の興味・関心の維持困難	101	25.4	10	14.5	3	9.4	79 *	27.8	35	16.4	114	22.9
栄養士の担当時間不足	69	17.4	9	13.0	5	15.6	45	15.8	38	17.8	83	16.7
受講者の知識不足で講習が難しい	32	8.1	8	11.6	0	0.0	26	9.2	14	6.5	40	8.0
講義内容と受講者ニーズの不一致	11	2.8	1	1.4	0	0.0	9	3.2	3	1.4	12	2.4
他職種との連携不足	1	0.3	2	2.9	3	9.4	0	0.0	6	2.8	6	1.2
その他	82	20.7	16	23.2	12	37.5	62	21.8	48	22.4	110	22.1
回答数合計	546	137.5	90	130.4	24	75.0	410	144.4	250	116.8	660	132.5
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	284	100.0	214	100.0	498	100.0

\*: P<0.05 栄養士vs保健師

表17 栄養士に求められる知識・技術

項目	栄養士の勤務形態別						回答者別				全体	
	常勤		非常勤のみ		栄養士未配置		栄養士		保健師			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
栄養カウンセリングの技術	293	73.8	45	65.2	16	50.0	213 *	75.0	141	65.9	354	71.1
栄養学の知識	291	73.3	50	72.5	13	40.6	217 *	76.4	137	64.0	354	71.1
食物アレルギーの知識	254	64.0	39	56.5	10	31.3	180	63.4	123	57.5	303	60.8
医学一般の知識	217	54.7	27	39.1	8	25.0	176 *	62.0	76	35.5	252	50.6
調理技術・知識	175	44.1	29	42.0	6	18.8	136 *	47.9	74	34.6	210	42.2
サプリメント	4	1.0	1	1.4	0	0.0	4	1.4	1	0.5	5	1.0
話術	5	1.3	0	0.0	0	0.0	4	1.4	1	0.5	5	1.0
その他	26	6.5	2	2.9	1	3.1	18	6.3	11	5.1	29	5.8
無回答	2	0.5	5	7.2	12	37.5	0	0.0	19	8.9	19	3.8
回答数合計	1267	319.1	198	287.0	66	206.3	948	333.8	583	272.4	1531	307.4
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	284	100.0	214	100.0	498	100.0

\*: P<0.05 栄養士vs保健師

表18 母親学級に対して思うこと

項目	栄養士の勤務形態別						回答者別				全体	
	常勤		非常勤のみ		栄養士未配置		栄養士		保健師			
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
仲間作り、交流の場としての役割	105	26.4	23	33.3	6	18.8	57 *	20.1	77	36.0	134	26.9
食生活への関心喚起	81	20.4	12	17.4	3	9.4	73 *	25.7	23	10.7	96	19.3
育児不安、ストレス解消援助	70	17.6	10	14.5	1	3.1	49	17.3	32	15.0	81	16.3
受講後の支援、相談継続	59	14.9	5	7.2	3	9.4	41	14.4	26	12.1	67	13.5
健康への関心喚起	53	13.4	5	7.2	0	0.0	40	14.1	18	8.4	58	11.6
母親教室見直し、ニーズへの対応検討	35	8.8	12	17.4	6	18.8	25	8.8	28	13.1	53	10.6
病院の母親教室との特色分け	36	9.1	8	11.6	7	21.9	26	9.2	25	11.7	51	10.2
受講者減少の問題	34	8.6	7	10.1	6	18.8	24	8.5	23	10.7	47	9.4
夫の家事、育児参加の必要性	35	8.8	3	4.3	3	9.4	16 *	5.6	25	11.7	41	8.2
調理指導の必要性	33	8.3	2	2.9	2	6.3	24	8.5	13	6.1	37	7.4
栄養教育の必要性	24	6.0	5	7.2	1	3.1	22	7.7	8	3.7	30	6.0
受講者の格差、意識の低下の問題	14	3.5	1	1.4	0	0.0	13 *	4.6	2	0.9	15	3.0
その他	24	6.0	5	7.2	2	6.3	18	6.3	13	6.1	31	6.2
記入なし	107	27.0	21	30.4	9	28.1	73	25.7	64	29.9	137	27.5
回答数合計	710	178.8	119	172.5	49	153.1	501	176.4	377	176.2	878	176.3
合計	397	100.0	69	100.0	32	100.0	284	100.0	214	100.0	498	100.0

\*: P<0.05 栄養士vs保健師

